
ディア・バレル

源

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ディア・バレル

【Nコード】

N5007S

【作者名】

源

【あらすじ】

あらすじ！！ この物語は愛（一方的な）と冒険（ただの欲望とも言う）

に満ちた波乱の冒険活劇である！！ 以上。

いざ発祥の地へ（前書き）

初めまして、源です。全編ほぼネタ的なソレとなるかもしれませんが、宜しければどうぞ。なるべくお茶を飲ませない勢いを維持出来たらな…と思っています。

更新頻度は一日一度を目指したいなどと。もし、お気に召されましたら、お気に入り登録なぞしていただけると励みになります。では。

いざ発祥の地へ

ディア・バレル

あらずじ！！ この物語は愛（一方的な）と冒険（ただの欲望とも言う）

に満ちた波乱の冒険活劇である！！

「おーい、タクト。何を瓦礫の上で高々と拳を振り上げてるのよ」

そう！黒のロングコートを翻し空に向かい大きく拳を振り上げ、この世界イオニースに感謝している！

何でこんな所に来たかは知らん！と言うかどうかどうでもいい！！

呼んだ奴も理由も知らない：が！ 一つある現実。

ノンフィクションなフィクションである！！

大きく空に向かい歓喜の咆哮——余りに仰け反り過ぎ地面へと転げ落ち

瓦礫の下にいる金髪ロングのまだ16程度の女だが：出る所は出て、

引っ込む所は引っ込んでいる、そんな少女の小さめのお尻を瓦礫から転げ落ち下から眺め：うむ。縞パンである。

「っ！？」

その瞬間、視界が彼女の足の裏に遮られ、華散る様に鼻血舞う。

その間にも絶え間なく蹴り足ピストン運動が続けられ、

まるで蹴られたサッカーボールの様に幾度もバウンド。

トドメの一蹴、数メートル程土煙を上げて赤茶色の大地を滑る。

「いい歳こいて何やってるんだ：オッサン」

オッサン言うな！ まだぴっちぴちの32歳 心は16歳の少年だ！！

「：つまり、オッサンだろう？」

やかましい！ お兄さんと言え：お兄ちゃんでもいいぞ！！
立ち上がり。黒いロングコートを翻し彼女に歩み寄る。

「あーまあ、どうでもいいけど：さっきから待ってるぞソイツ等」

ん？ ああ。やられ役の三下連中なぞほっとけほっとけ。

などと鼻で笑いつつ彼女の肩を抱いた瞬間、肘が左脇腹に突き刺さる。

苦悶の表情と共にくの字に曲がりつつ右手で彼女を制止するが：

そのまま彼女のカカトが俺の後頭部に。

「全く。馬鹿やってないでさっさと蹴散らすぞ」

面倒臭い：が、まあ邪魔なのは確かだな。

最早容姿も筆舌に面倒臭い三下連中三名と向かい合う二対三。

赤茶け乾いた大地の上に立つ俺達。

一陣の乾いた風が彼女の金色の長髪を通り過ぎた：合図。

「面倒だ、一気に行くぞティア！」

「はいはい」

再び右腕を翳す！ その甲に在る文字——言神！
コトガミ

字は神を現すその力：理不神
リフジン

彼女の言神は——連神！
ツラガミ

——飛翔。瓦礫を連れ集めた瓦礫の翼。大地を抉る様な重みと共に飛ぶ瓦礫の天使。

もうちょっとで見えてしまいそうな素肌にジャケットと、ホットパンツが悩ましい。

——分解。連ねた瓦礫が結合力を失い、まるで銃弾の様に地に堕ちる。

そんな危なげな露出に魅入られた愚者を肅清するかの様に、降り落ちる瓦礫の羽。

最早それは鉛の雨：っておい！！

俺にも当たる！ やめんかごるあつつ！！！！！！

「…どうせ死なないだろうが、理不尽な奴め」

まあそりゃそうだが、実際既に数多の瓦礫の銃弾を喰らい…ほ
れ。

眉間に穴が…普通なら死んでるが。まあ死なないんだこれが。
堂々たる歩みでお気に入りのロングコートを翻し…ておい！！

「うるさいな。服に穴があくぐらいどうでもいいだろう」

良くねえ！ お気に入りの服ををを！！！！

あ？ 三下がこっちに勢い良く走り込んで…特攻か。

ふむ…火神か。…上等！！

相手の右手から激しい熱量の炎が発生し、それを鞭の様に振り
俺の方へと振り下ろす。普通ならこんなもん喰らったらこん
がりウエルダン

だが…。

「あーもう。相変わらずフザけた言神だわ」

——火には水で消すか土で消すが道理。だが…そんなものは関
係無い！

受けた炎の鞭を素手で掴み、その炎を消す。 ただ何も無か
った様に…だ。

相手が一瞬怯みを見せたが我を取り戻し、再び言神を…無駄だ。
慌てて奴が自分の手を見ているが…そこに在る筈が無い。

何故なら——この俺が奪ったからだあああつ！！！！

右手の甲にある理不尽に火神が更に書き込まれ、火属性の理
不神となる。

つまり、火に係する理不神が使用可能となったワケだ。

「ちよっと、少しは加減しときなよ」

問答無用のハイテンションで大きく右手を前に差し出し、左手
で右手首を押さえる。

以前にもこの火神は相対したからな。

青ざめて背を向けた三下連中に向けて収束される白く丸い球

体、眩く光る閃光。

周囲を白く染め、俺の背後に一際暗い影が落ちる――放出。

超高熱を有した極太のレーザーキャノンともいうべきソレが大気を焼き……あーあ。

「どうするんだ……君」

んー。取りあえず見なかった事にしようか。そういうとティアが大きく溜息をついた。

「全く……とんだ破壊神だな。ま、君と居ると金になるからいいが」

妙な利害関係がここに在る。

俺は土地に疎い上、いまだに言葉も余り判らんが、何故か彼女は

俺の言葉を理解しているのだ。

そんな彼女は土地に明るく言葉も判る。それを与える代わりに彼女の目的を手伝うと言う事だ。

目的とは、所謂トレジャーハントと言う奴である。

ティアの言う所、この言神の発祥となった土地『ディア・バレル』

と言う所が何処かにあり、そこには金銀財宝お宝の山らしく……まあ。

目を輝かせて言うワケだ。光物に弱いらしい彼女。

いやそれよりもだ。向こうにある街から火の手が上がり、煙も酷い事に。

確かにやり過ぎたがまあ、いいや。言神は誰でも取得が可能であり

持って居ない者の方が少なく、並大抵の事では死なんしな。

「並大抵か？大地を抉り、大気を焼いて飛んでいったあの巨大な白い火柱が」

ご尤も。……うお！ ほれ見ろ大丈夫じゃないか！！

被害のあった彼方から激しい土煙と共に、大量の人らしき影

が押し寄せてくる

じゃないか!! どう見ても俺達目掛けてだ!!!

「力が強いというのも考え物だね」

冷静に言っただけで逃げるぞ!! いくらなんでもあの人数は無理だ!!

乾いた荒野に巻き起こる二つの土煙。一つは逃亡。一つは追跡。

二つの土煙は紅く沈む夕日に向かい続ける。

彼女の目的地である発祥の地『ディア・バレル』へと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5007s/>

ディア・バレル

2011年10月9日00時14分発行